

天、次西北向拜地、次四方始自東、次南御座、陵兩段再拜、次隨天氣藏人頭參進、開御屏風給御笏、更給藏人、次入御、撤御裝束、

凡爲職事之頭已下皆悉祇候云々、事了之後各退出、六位下臈二人不出、

〔建武年中行事〕春をむかふるほどは、内わたりなべてことしげ、れば、いづくを初めなるべしともわきがたきやうなれど、ところ／＼の御裝束ども、とのもりかまりの女孀共、さわがしくいそぎと、のへたるに、追儼はて、砌のともしびどもかすかに見えわたるほど、四方拜の御裝束いそがすめり、事行ふ藏人小舎人やうのものこえ／＼に、ことにつきたるも、折から所得たりがほなり、大宋の御屏風庭に立めぐらして、御座を北面によそふ、主殿司御湯をくうす、是よりさきに御ゆする有べし御ゆどのはてぬれば、寅の時に御掛の人めして御裝束たてまつる、略中清涼殿の三間の格子をあけて出おはします道とす、雨降ときは、御座を弓場殿にまうけたるによりて、額の間、筵道布毯をしきて屏風のもとに至る、うへのをのこどもしそくさす、近衛の中將御劔にさぶらふ、屏風のもとにて藏人頭御笏をまゐらす、先北辰を拜する座にて二拜、屬星の名次に天地四方を拜する座に著き給ふ、御座のうへに褥をしく、北向にて天を拜し、乾にむかひて地をはいす、子のかたより卯午とり四方各皆二拜なり、御座のまへに白木のつくゑるに香花燈を置り、北辰を拜する座に式篋を置、是を置人若二陵あらば、うしろに又一帖是をしく、おの／＼兩だん再拜なり、御座は皆兩面のみじかきた、みなり、御拜はて、入らせ給ふ、藏人頭御さうがい御笏を給はる、

〔後水尾院當時年中行事上見〕朔日、四方拜とらの一刻なれば、とうより御ひるなる、常にならします方にて先御手水まゐる、はいせんの上臈はかまばかりきて、御手洗をもてまゐる、はいせんとりて御前におく、次御うがひ椽等の物をもて參る、御手水をはりて後御湯を供す、是より先にかなへと御ゆをはこぶ、刀自取傳へて御ゆどのをかまふ、御手水のはいせんの人御ゆどのにむか